



諸國談

東遊記後篇二

特別
L3
3983
7



六里と四百石核社の川舟常小一日小上下と海小運漕小使
利なり事と海目又かる川なり一里大なる事日本才一な
る小まな名をうらぶる北陸僻遠の地小ありて海小ま川車
穩とんして舟ふね明あきらむるゆゑなりて余新しん浮うき乃すなは断つり又小和わてり
牙かまき芝田の本崎といふ所とみ里うち成なりけ川の入いりくとい
ひひとと恋のうし小ま名な度た小ハ武里小竹たけありとあり狭せまく入いりて
終つひ小武ぶ三十石の所とあり是ハ幸川筋すぢ小ありとるゆゑなり流ながま
ふ勢いきほうして流ながままがごとくけ日付小睦せむ天てんまで赤岸せきぎしの系けいを
うたりく入いりく小蓮はらの堂どうあり一夏なつ月つき水みづ面めん一様いっようの花はな小
て見事みやげなりままいけいんんととぞ新あたら浮うきの町まちより舟ふね流ながれ

荷かり華くわと賞しょうし又ハ納のう涼りやうなりと小藝ぎん華くわといふお船ふね中ちゆうより四方しやう
尺しち後ごととふああるを東あづまより六七十里と尺しち後ごして小舟ふねありああり
ハ武ぶ取とる里りの所小佐さ渡わたり心こころんんゆゆを方かた小奥おく州しゅう倉くら津つの心こころ尺しち取とるが
ののとく四回よっぺん小舟ふねをささる地ち也なりて北海ほくかいの廻まわり出でる夫おつと僕ぼくなりハ
哉や及およ才さい一いつの藝ぎん華くわの作しやく也なりてま橋はしありして小舟ふねあり又また後ご一
國くにの系けい小舟ふねはは淺あそふからゆゑ志し大だい名な藏くら多く建たて小舟ふね方かた吾われ國くにの事こと
ゆゑを小舟ふねのまハ河かあり氷こほり牙かと舟ふねの廻まわり給たまへ陸りく地ちを吾われ海うみ
海うみとハ十月より三四月はまてハ船ふねと出でる事ありハはりハ夏なつ一季いちき
位くらいきまといふなり

二馬屋

名小舟の件はゆのふ小玉をハギリ松原海甲へ抛入て
 こころ不矢成村らとく横小舟切ら幸まりとぞか
 少くも風たゆむ時をけ汝小舟をさるるなりとぞ
 夕の暮ひかゝゆられお少むらておととむむ千重より
 前よりお舟をさる幸ハ人かむくハ及びとて汝ハ舟
 ととらとく幸ふあらあふあるのまてと理解し
 こまらぬのどれおゆえ我と松原へ返らんといふ
 小舟り遠るどと順風くくしてゆ返らすして汝
 了の毎の順風あり幸とあり又二十日二十日と順風あり

むとありそしゆふ及て此後海までハ昔より松原ありと
 云南船の田名船のサイ成ハヲコへの遠より松原の船
 ハ心をくく天氣もあれが海城隔ておれのはしとあり
 こちらと云南船のサイヲコへのまハ二馬屋あぐらもたふ
 小舟へおる地あり二馬屋より山の方小藍のまこと遠
 おもむく是船走地のこととよ又田名船のヲコへの遠のこ
 とのよこをさる日木のまはる海もれども漢小あり
 友他國のふと名成ふとくば

狐の義理

越後村とろをまふ百姓夫婦小娘と人おてり天明己年



の事なりし中家内小嵐荒く物と我とあひつきば三と
 と飯小まじく嵐小飼ひ式三足と取つて庭先小控りし
 小まねを宗の控り小まうと彼嵐成食ら小ま三とての
 小まら嵐ま小控とを毒小あつて死ら親控ままら
 ある小成太小恨と婦控小たけと急くせうと口をくま
 粉らあましくけいあ死をり又三次の娘小とり付く馬一
 けらりのちふ二人の娘死しぬき父母を歎と悲しとまね
 庭先くまわしくいさる嵐と控ら小海子小めと人殺せん
 とのゆやあまごらに母小ひさばり食ひと死しとら
 是元来海子のあまらりま成け方のまごこのやうふん

の心方の愛子と人まことと殺すといはいる事とや
 ときひらうあまらうあまらうと恨らうらまら小控親控け
 乃ゆらまらうとゆをを思映をを小老控亦足死し居
 ころ百世ま婦をゆかんを呪殺け方より恨とひり居
 小を先くまごのくまらう死しとらとんてとら石行のまご
 かりとがぐさけい小とらとををた成親と文婦と小刺殺
 一田地と賣り賣事と控と由事と受けけしおまらけ春を
 者ひまももまら一と武はあまらうとあつとらまら一と
 付はゆふ

讀の巻

丁南田後不拾万石の地と定らるる地は
肥たり只耕地のくさきと怪しむ一又南郊の地亦南より廣く
一戸三戸ふ戸七戸八戸九戸計を地として戸の字の付
たり地あり戸ノ字と皆へて信く皆三里五里或は七八里と高
て山に揚り川とありて要害の地なるべし城治とらんゆ今ふ
くも戸ノ字の付らるる地皆町地なり終へて往古賑夷と評
一國形本産なりやと云ふも此由急今ふありてと評す名の所
一ころありあべし一内中を地といふと北の所なり又南郊の
地は今も六丁城を里と云ふ余初々都より右の所城ありふ或
廿五里三十里計ありいふ評一が後大別く事小茶をりる

平からあるがははるふありと云ふと評す一のあり一
南郊の地もてより一日ふ七八十里又ハ百里と徑の可なり
わりと仙臺願津権領も南郊ふと云ふ地あり六丁城を
里ト云ふ六十丁城大道を里と云ふ地の人ふ里數と云ふり
小まき人大道よりなりといひく幾里ありと云ふ評あり
風るなりあり

綿本

綿本の古は南郊領と評す領との境山溪と云ふ所の傍
山ありうりたり東南の所へ入るなり
一は流ふツキと云ふ所の橋ありといふ評小大木ありと云ふ

所うありし頃の年以の雷火よてまゝ焼失せりしと
 又南部三ノ戸のあの方の在申の跡あるのちとて巡見
 使あぐると一見の地ありと云はる所の古たたりや
 名所古跡と伝事あり上言の地ふまゝ一は延由たふ
 かしお羽の國よても牡丹色は古人のせびりし事也
 尺もふありそくハ極色の地中もせびりし外候は
 心算の如きありしころかのころは津野津野吉なる
 くの里は流木の塚あり計入東の臺の碑母田の西川
 かどは東部の内と云南部は種秋田迄ハじりハ皆
 人の住ありしころと云ふ中ありしは百年来計てもハかく

今く日本の名もあはるりとありあり

龍鱗

越後糸魚川の近在黒姫山の麓姫川の原ふ水隠して
 大なる虫ありしは先年姫川大洪水の時ありし後
 獵師彼處の虫へけりしはけりしと云く滑る脂の
 ところもあはく付居たり又此の角のふふたあは鱗と云
 所のあはけ付たりはまゝささ守はありはけりしは
 押あはれありしは此角小陸くと云く鱗はち脂油
 色白ありしは流川ハ流のどくもあは流りて大なる
 しがは流りの勢いありありのをも押流たりしは

換師まへとと西海せい今いま小こ取とせりと言こと語ことばの輝あざといふ

ふらありあり取としし水みづあままとらと珠たまごといふいたまま

いりい和わ玉たま合あ浦うらのの輝あといひい侍さむらいといふいと

とと教くわくく字しええ得とくくままのの寶たからといふい中ちゆう君きみ子こ温ぬる潤ぬのの産うみ

いいととははささりり我われ知しるるはは昔むかしよりより格かくおおふふををととままととまま

ずず神かみ代しろ小こ曲まがむむままとといいどど今いま左ひだり家いえよりより堀ほりおおささりりととりり小こ格かく

珠たまご愛あいといふいおおももととりり又また珠たまごをを産うみととらら山やま川がわととももすすままはは小こ越こ後ご小こ在ありりはは新あらた厚あつののくく入いりり得とくく一ひとははけけををととままととまま

小こ越こ後ご厚あつといふいままととあありりけけほほ小こ珠たまごととままくく先さきにに見みあありりここ

ちちとと二に四し尺せき見みたりりももわわらんん月つきののりりりり夜よははおおめめとと見み入いりり

とと開ひらけけとと得とたたとと炎かきのの程ほどををわわらんんとと見みるるとと暁あけのの明あきら

とと望のぞみみたりりととくく光こう明めい赫せきととくくとと水みづ面づらわわりりととめめくく

とと見みるるととくく時ときのの急いそぎぎはは只ただ只ただ水みづ底そこにに沈しづむむとといいふふ天あま開ひらけけ

とと照てるぐぐららとといいふふととままとと神かみ代しろとといいふふととみみのの白しろをを見みるるとといいふふとと見みるるとといいふふ

とと見みるるとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふ

とと見みるるとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふ

とと見みるるとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふ

とと見みるるとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふとと同おなじじとといいふふ

絶域のよととごらりし奥の代わく或夜のやの月も
 おやうくとおぬらうて是れとくづき湯とあるとらうとの谷
 川と陰像のあそえぬ一々きりるをたふすはとこし西の
 幸ふあす乃逢ふ人のいじと一眠りらとらふまにありと
 しついで相おとやいままの秋きりりうふ幸言ま
 こきりて今いかに百餘里と隔きりたあまの夜もよ
 甲は六七百里お宿するは程と宿とこりてとてんゆりやとす
 ぬき老あふる父といまをり今程いり居るあうんここの幸
 ととらひつとらひあありとあと夜集とつひいも色に長物もあ
 志ほきてけ程とあつる危うし幸をけりあひけり見

酔しく危さ幸ぬ便に合今やしてまをゆり又お洋の光
 父とと遠さこのあ瓜をま振ととと社あまや杯かしく弱
 くううらうさ居るおや対を頼るふととらとしくは若
 年きあか

相携千里遠 京畿旅館夜 深燈影微
 窓外杜鵑聲切 請君細聽 不如歸

若ぬらととら文字のやましくけ不清おの通にささあひ
 ませぬふれど実境おなうて実情瓜述べ小舎とを成吟
 しくさへは恨愁としく是う帰れいとく幸とハなり
 ぬ物あかおんとする時門はきり皆後人と清お結ととらる

具をりふいそく小のまじし能候小乃さそく才一太階の惣
 一、きく小湯るべし相違百千里の行程をきはん弱と老
 是弱と老者も病の患告めし一幸吉といふ者わし
 太師より老りし、程画びらりのりし、ま母愛あつる老の
 一、甚き病、さう老たりし、是等の事、とあつた光は具と
 一、い老ふゆゆし、病の附は袖中よりあつ居し文房
 といふ事、其具とけ夜、日向う春居し、書物と具と
 是は書物、余りあ存せし、附肥後の疎麻とあつ、一、を
 一、ま井佐徳守の家、小儒子候所の、書物より居るは
 六十日、方圓居と、一、ふ、ま井、さう、初とあし、侍、く、余り

妻井と詳し、さう、附、書物、後ひあつ、んとせし、ふ、ま、又
 日向、ま、あつ、く、い、ま、ご、漫遊、の、事、と、ま、ま、ま、忍、ん、東
 邦、小、い、ま、ご、他、邦、小、梅、さ、う、と、於、し、と、君、父、小、石、法、し、て、所
 小、従、ふ、の、な、ま、ご、し、と、し、ひ、小、理、小、伏、し、く、能、後、小、梅、り、る、言、う
 一、後、表、表、初、日、向、小、梅、で、は、事、成、又、小、梅、り、梅、念、あ、つ、と、い、ひ
 一、の、父、玄、誠、怒、り、く、汝、い、ま、み、が、り、と、い、ふ、一、好、事、ハ、梅、能
 一、さ、さ、さ、さ、さ、ひ、や、と、い、し、附、あ、つ、は、ほ、ひ、く、九、州、一、も、四、島、も、押
 一、所、り、梅、さ、さ、の、功、と、梅、ん、ら、と、我、一、た、又、う、梅、さ、さ、の、あ、さ、さ、一、封
 一、の、事、書、と、い、ふ、送、ら、ハ、何、と、我、許、一、成、梅、ん、主、君、之、の、一、と、由、り、老
 一、く、一、取、梅、一、と、梅、ひ、を、は、肥、後、小、梅、り、る、も、四、島、は、梅、り、と

